

キャッチコピー 候補作品

【要件】

- ・札幌市立大学の魅力が「ひとこと」で伝わるもの
- ・簡潔かつ明瞭で、インパクトのある言葉が望ましい

No.	キャッチコピー	作品説明
1	人に寄り添い、未来を拓く。	<p>我が校の理念である「人間重視」を両学部当てはまるように簡潔かつ耳に残るリズムでまとめました。</p> <p>看護学部の「人に寄り添い、その方々だけでなく退院後や地域に戻られた後まで考え支援すること」すなわち、「その方が未来を拓けるような関わりを学ぶ」部分と、デザイン学部の「本当に必要とされるデザインは人に寄り添うことで創造され、誰かのためのための創造が地域や人々の未来を拓いていく」というイメージを表現しました。</p> <p>看護学部とデザイン学部という一見共通点のない学部が存在する大学ですが、2つの学部の共通点は「誰かのために」という前提のもとに成り立つということであり、それこそが我が校の理念の「人間重視」なのだと思っています。そして、「誰かのために」形にしたことは必ず未来に繋がるものになるはずで、本キャッチコピーではそんなイメージを感じられます。</p> <p>蛇足になりますが、サブコピーを付けることが許されたなら、「誰かのために」をここで形に。という1文を加えて我が校の理念だからこそ出来る部分を前に出せるかなと思いました。</p>
2	さあ、これからのカタチを共創しよう。	<p>このキャッチコピーは今までの20年間を経て、さらに次の時代を作っていこうという前向きな大学の姿勢を表した。</p> <p>カタチをカタカナにしたのは、具体的な形だけではなく、在り方や考え方など様々な意味を柔軟に含ませたいと考えたからである。</p> <p>カタチというのは、色々な意味を含め、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これからのデザインの在り方 ○これからの看護の在り方 ○これからの社会・地域の姿 <p>これらを今ある固定概念や形式に囚われず、教員、学生、卒業生、地域、社会の方々とみんなでより良い方向へ作っていく、共創していきたいという願いを含めた。</p> <p>学生においては、札幌市立大学の特長とするD×Nに基づき、これからもデザイン学部と看護学部が協力し合いながら、地域貢献をし、人々の暮らしや社会をより良くしていきたいという思いも表している。</p> <p>最初にさあ とつけたのは、札幌市立大学に関わる全ての人々が一緒に進んでいき、誰かひとりではなく、共に創る姿勢をより強調する意味を含めた。</p>
3	つながりの先に、未来を紡ぐ。	<p>人と人、地域と大学、看護とデザイン。</p> <p>札幌市立大学は、それぞれのつながりの中で学び合い、共に歩んできました。その出会いのひとつひとつが、新しい発見や価値を生み出し、未来へと続く道を形づくっています。この言葉には、そんな「つながりが未来を生み出す力」を信じ、これからも、人との関わりから生まれる温かさを大切にしながら、未来を紡ぎ続けていってほしいという思いを含めました。</p>
4	ひろがる学び つながる縁	<p>札幌市立大学の魅力は、幅広い分野のデザインを多様な専門の先生方から学べる環境にあります。学びを重ねる中で、自らの興味や専門を見つけ、学びが大きく「ひろがっていく」ことができます。また、学生同士の絆や先生とのつながり、授業を通じた地域の方々との出会いなど、多くの「縁」が生まれることも本学ならではの魅力です。開学20周年を迎えた今、地域との関係はより深まり、卒業生を通じて社会との結びつきも強まっています。そうした「ひろがる学び」と「つながる縁」を次世代へとつないでいきたいという想いを込めました。受験生には仲間と出会う期待を、保護者の方には生涯続くつながりへの安心を、地域の方にはこれまでのご縁への感謝と今後も共に歩む姿勢を伝えるメッセージです。</p>
5	向き合ったからこそ創れた、20年分の未来へ	<p>本校のキャッチコピーは「人と向きあう、未来を創る。」です。このキャッチコピーのように札幌市立大学では、人間重視で人・デザイン・看護に向き合ってきました。そして、真摯に向き合ってきたからこそ、20年という時を迎えることができ、未来(社会のリーダー)を創ってこれたのだと思います。この未来という言葉には、SCUIに入学した学生という可能性ばかりの卵だったり、積極的に関わってきた地域社会の発展の意味も込められています。この多様な未来に感謝を伝えつつ、これからも創っていくという意思をキャッチコピーに載せました。</p>

No.	キャッチコピー	作品説明
6	開いた未来、拓き続ける夢	<p>周年イベントらしく開学の「開」と、北海道らしい開拓「拓」を合わせました。札幌市立大学が開学したからこそ、開かれた未来がたくさんあります。本校のキャッチコピー通り、それは社会のリーダーだったり、SCUに入学した学生という卵だったり、積極的に関わってきた地域社会の発展だったり…。そのすべての始まりが開校という大きな出来事です。</p> <p>また、札幌市立大学はデザイン・看護と専門分野を学び、夢への可能性を拓く場所です。学生自身も社会にとって重要な人材＝夢です。特に、札幌市立大学は地域実践や関わりを大切にしている過程でも、多くの人の夢(願い)を実現させてきたと思います。さまざまな夢をこれからも拓き続けるという意味を込めました。</p>
7	D×N(にじゅう)の学びで、20年。	<p>①SCUでは、デザイン×看護が掛け合わせり二重(にじゅう)の学びを得られる →D×Nをにじゅうと読ませる ②20周年の20(にじゅう)</p> <p>以上の2つの「にじゅう」をかけました。SCUは遊び心ある先生や学生ばかりなので、思わず声に出したくなるようなしなやかな掛け合わせのあるキャッチコピーにしたいと考え、このようにしました。</p>
8	20年の創造とケアのDNA、未来を共に。	<p>本学の根幹にある「デザイン(創造)」と「看護(ケア)」の融合、そしてそれらを支えるAI・ICTの力を「DNA」として表現し、これまでの20年間で培ってきた独自の教育・研究の歩みを凝縮しました。また、「未来を共に」という言葉には、学生・教職員のみならず、地域社会と協働しながら次代を切り拓いていくという本学の理念を込めました。このコピーは、過去への感謝と未来への挑戦をつなぐメッセージであり、「札幌から創造とケアの精神を発信する大学」としての姿勢を端的に示すものです。</p>
9	そうだ！ともに創り出そう。	<p>D×Nの精神を端的に反映していると思い応募しました。デザイン学では、さまざま学問が融合し、新たな価値を模索し、看護学ではこれまでの知見を踏まえつつ、新たなエビデンスの構築を行っており、それらの共通項は創り出すことであるためキャッチコピーとしました。「ともに」という部分がD×Nの部分を表しています。</p>
10	人間を考える、人間が考える。	<p>「人間を第一に考える」というデザイン学・看護学の本質を端的に表現しました。人間を考えるこの2つの領域は、AIには奪われない人間にしかできないものであるという覚悟も込められています。「人間を考える、人間が考える。札幌市立大学は20周年」のように使用すると良いと思われます。</p>
11	思考と実践の20年。	<p>デザインと看護を擁するSCUの20年は、思考と実践の20年だったと思います。頭で考え、手を動かし、体を動かすその繰り返し。確かな思考力と実践力を養えることこそ、本校の魅力であると考えました。</p>
12	その手で考える、ハタチのSCU。	<p>デザインと看護、どちらも手を使い考えることで模索する学問です。ハタチになったSCUはこれまでもこれからも、手で考えるということから逃げずに邁進してほしいと願い考案しました。</p>
13	その手は知、その知は手	<p>札幌市立大学が擁する学部「看護学部」と「デザイン学部」は、その「手」に「知性」を宿して社会の問題を解決することを目指しています。「手」は「知性」であり、「知性」は「手」である、というトリロジーをキャッチコピーにしました。「そのてはち、そのちては」という日本語のリズム感も大事にしています。</p>